	テーマ	主な内容
1	キリシタン史概要と前史	1549 年以前のキリスト教の影響を含め、キリシタン史全体を概観します。
2	ヤジロウとザビエルの来日	ザビエルが、マラッカでヤジロウと出会い日本宣教を志した経緯と２年強に亘る日本伝道の足どりを追います。
3	高山右近ら キリシタン大名	キリシタン大名が果たした功罪と、その中でも、特に影響の大きかった高山右近について学びます。
4	巡察師ヴァリヤーノと適応主義	日本に宣教に来たザビエルとその後継者コスメデトルレス神父や巡察師ヴァリヤーノが採った「適応主義」について学びます。
5	イエズス会の教育と信徒組織	未だ「日本語聖書」が無い時代に、どのように伝道し、教育をして行ったのかを学びます。
6	秀吉の伴天連追放令と迫害	秀吉の九州平定以後、突如、宣教師追放が告げられます。いったい、どんな理由があったのかを学びます。
7	鎖国と徳川幕府による禁教	キリシタンに対する組織的で徹底的な弾圧と、外国との交流を長崎の出島に限る鎖国政策に至った経緯を学びます。
8	潜伏キリシタンと高札撤去	九州長崎の一部や五島列島で、自分たちの信仰を隠しながら守り続けてきた「潜伏キリシタン」について学びます。

◇1549年8月15日鹿児島
上陸…中国のジャンク船にて

フランシスコ・ザビエル
コスメ・デ・トルレス神父
ジョアン・フェルナンデス
修道士
ヤジロウ
とその従者たち

◇キリシタン伝道の成果は、ザビエルの信仰と人格、情熱によるところが大きい。

右　ヤジロウ
（アンジロー）
左　ザビエル

- 薩摩の国の下級武士の出身だったが、かつて自分が犯した大きな罪（人を殺して日本にいられなくなった）の赦しを求めて、マラッカのザビエルに会いに来た。
- ゴアの聖パウロ学院で教理を学び、パウロ・デ・サンタ・フェという霊名で、洗礼を受けた。
- ザビエルと共に鹿児島に上陸し、ザビエルの通訳・案内役を務めたが、ザビエルの上洛後、鹿児島に残ったが、その後の消息は分からない。

天文十八年(一五四九)フランシスコ・ザビエル
貴久と会見した時、案内役であった。後宗
(伝)オッドンの墓 ポ
ロヤジロウ
宇治城を訪問し
の事にてここで殺される。

ザビエル歴史街道
ヤジロウの墓(伝)
Monument to Yajiro at his Presumed Gravesite

フランススコ・ザビエルの日本宣教

1549年8月15日から1551年11月まで2年3カ月日本宣教

◆「このポルトガル商人たちとともに、ヤジロウと呼ぶ一人の日本人が来ました。彼はマラッカから日本へ行ったポルトガル商人(ジョルジユ・アルパレス)が私のことを話したのを聞いて、私を探してここまで来たのです。このヤジロウは、青年時代に犯した罪についてポルトガル人に話し、こんな大きな罪を主なる神に許してもらうための方法を求め、私に告解したいと思ってマラッカに来たのでした。・・・彼はかなりポルトガル語を話すことができます。私が言ったことを理解しましたし、私もまた彼の話が分かりました。」

◆「もしも日本人すべてがヤジロウのように知識欲が旺盛であるなら、新しく発見された諸地域のなかで、日本人はもっとも知識欲の旺盛な民族であると思います。このヤジロウはキリスト教講義に出席した時に信仰箇条を書きました。また教会へたびたび行って祈っていました。彼は私にいろいろな質問をしました。彼は知識欲に燃えていますが、それは非常に進歩するしるしであり、また短時日のうちに真理の教えを認めるに至るでしょう」

◆「マラッカの町にいた時、私がたいへん信頼しているポルトガル商人たちが、重大な情報をもたらしました。それは、つい最近発見された日本と呼ぶたいへん大きな島についてのことです。彼らの考えでは、その島で私たちの信仰を広めれば、日本人はインドの異教徒には見られないほど旺盛な知識欲があるので、インドのどの地域よりも、ずっとよい成果が挙がるだろうとのことです。」

（1548年1月20日、コーチンから
ローマに宛てた手紙）

フランシスコ・ザビエル年表

１５０６年	ナバラ王国のサビエル城に誕生する。
１５１６年	スペインのナバラ王国攻撃により、サビエル城が破壊される。
１５２１年	兄達はスペインの守備軍の武将イグナチオ・デ・ロヨラと戦う。
１５２５年　(19 歳)	パリ大学の聖バルバラ学院に入学。
１５３０年（24 歳）	哲学修士を授与される。神学院で同室となったロヨラの感化を受け、 修道者として東方布教に献身する決意をする。（ザビエルの大回心）
１５３４年（28 歳）	イグナチオ・ロヨラと７人の同志会を結成し「モンマルトルの誓い」を立てる。
１５３７年　(31 歳)	司祭叙階。
１５４０年　(34 歳)	インドへの派遣。1543 年ゴア到着。
１５４５年　(39 歳)	マラッカにて、日本人ヤジロウ（アンジロー）と出会う。
１５４９年（43 歳）	鹿児島到着。鹿児島領主・島津貴久に謁見、布教許可を得る。
１５５０年	平戸へ行き、領主・松浦隆信より宣教の許可を得る。
１５５１年	京都に行くも、天皇への謁見は果たせず。
同年１１月（45 歳）	日本を去り、ゴアへ向かう。
１５５２年 12 月（46 歳）	中国宣教を願いつつ、病に倒れ、死去。

ロヨラと同室
大転機

イエズス会結成

インド・ゴア到着

ヤジロウと出会う

鹿児島到着

イエズス会

旧南蛮寺の鐘　イエズス会の紋章
京都市　妙心寺春光院　保存

IHS　Iesus Hominum Salvator
人々の救世者イエスス

1534年8月15日、イグナティウス・デ・ロヨラとパリ大学の学友だった**ザビエルら6名の同志**がパリ郊外のモンマルトルの丘の修道院に集まり、「**モンマルトルの誓い**」を立てた。清貧・貞潔とともに「**エルサレムへの巡礼と同地での奉仕、それが不可能なら教皇の望むところへどこでもゆく**」という誓い。

イエズス会は「**神の軍隊**」、イエズス会員は「教皇の精鋭部隊」とも呼ばれ、軍隊的な規律で知られる。

イエズス会のモットー
「**より大いなる神の栄光のために**」
（Ad Majorem Dei Gloriam）AMDG

Ignatius de Loyola

聖イグナチオ・デ・ロヨラ

聖イグナチオは1491年(月日は不明)スペインの北部
バスク地方のロヨラ城で生まれた。
青年時代は軍人と文人としての教育を受けた。
彼自身「若いころは平気で罪を犯した。生活は乱れていた」と記している。
1521年、当時スペイン軍が守っていたパンプローナの要塞にフランス軍
が攻撃した時、砲弾がイグナチオの足にあたり、瀕死の重傷を負った。
手術によって負傷した片足が短くなっていた。彼は、医師に訴えて、
短い足を器具でむりやりに伸ばすという拷問に耐えた。
回心の体験を受けたイグナチオは、1522年、ロヨラ城を出てバルセロナ
の近くにあるマンレサの洞窟でおよそ1年間こもって、
祈りと断食の生活を送り、神秘体験も受けた。彼が1548年に著した『霊操』
(心霊修行)は、このとき草案をまとめた。イグナチオはエルサレムに巡礼し、
1524年、バルセロナのサラマンカ大学でラテン語の勉強をはじめた。
さらにはアルカラの大学で学び、1528年、パリに向かった。
イグナチオは、パリ大学の「聖バルバラ学院」を選んで入学し、若い学生に
負けずに勉強して教養学部と神学課程の学位を得た。後に彼がイエズス会を
創設し学校経営に携わったときの教育方針に大きな影響を与えた。
聖バルバラ学院の学寮では、フランシスコ・ザビエルも寮生として学んでいた。
パリでの生活の間にザビエルを始め、『霊操』をした6人になった。
これら「7人の同志たち」は、1534年8月15日に、パリのモンマルトルの
丘のふもとの聖堂で誓願をたてた。誓願は、清貧に生き、隣人を助け、
貞操を守り、エルサレムに巡礼し、人々の霊的指導に捧げること。
エルサレムに永住できない場合はローマ教皇に拝謁して、教皇に従順を誓い、
より大きな神の栄光のために、どこにでも遣わされることを願うというものだった。
この「より大いなる神の栄光のために」AMDGは、イエズス会の標語として
現在に至っている。イグナチオとその同志たちは、1537年司祭に叙階され、
共同生活をしながら、新しい会について話し合い、要旨を作成して
教皇に提出した。1540年9月27日、教皇パウロ3世から正式に「イエズス会」
創設の認可を受けた。翌1541年4月14日、会員の投票によってイグナチオは
イエズス会の初代総長に選出されました。
イエズス会の成長を導きながら1556年7月31日にローマで帰天した。

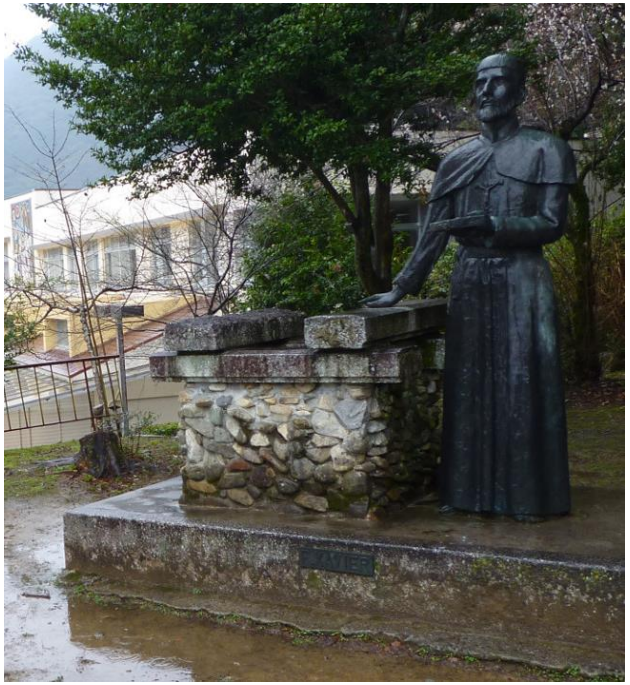
ザビエルの日本での足どり

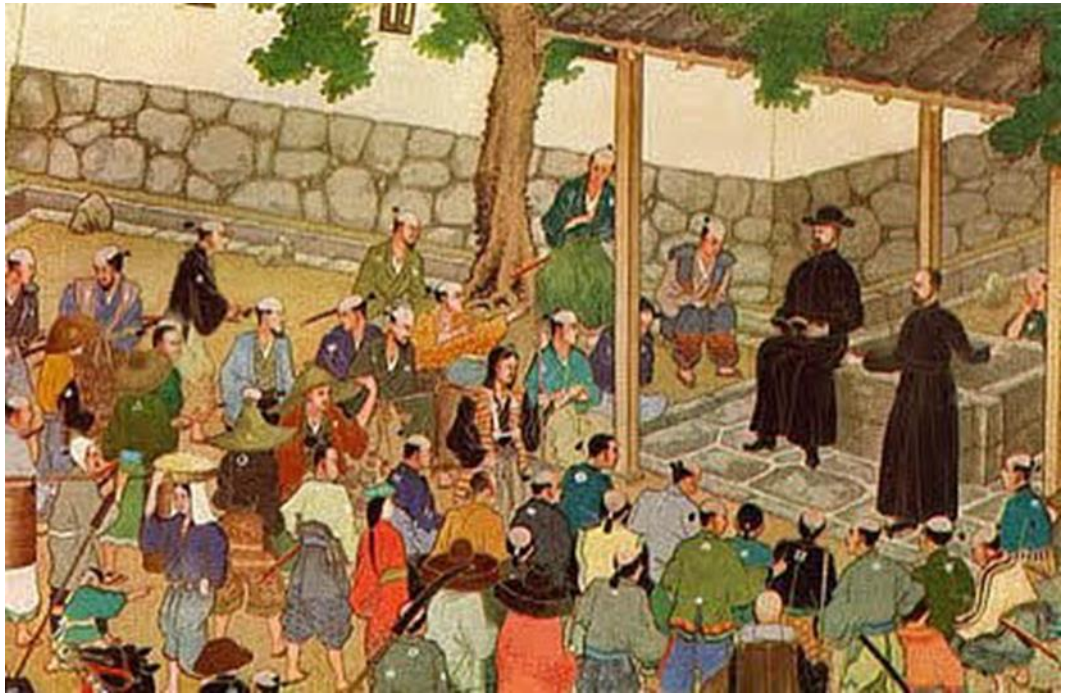
鹿児島（1549年）➡平戸（1550年）➡山口➡京都（1551年）➡山口➡府内（大分）➡インドのゴアへ（1551年11月）

鹿児島・島津貴久

- 　布教を許された期間に、サビエルはおよそ150人の人たちに洗礼を授けた。
- ザビエルは、信仰問答を好んで使用した。
（忍室和尚との問答など・・・）
- 　僧侶たちの反発が非常に激しくなり、反乱さえも起こすほどの勢いになったために、布教禁止。
- 　サビエルは、ほぼ1年後に鹿児島を後にしている。

山口での伝道⇒日に2回の路傍説教





⇒２カ月で５００人に洗礼

⇒盲目の琵琶法師　**<u>ロレンソ了斎</u>**

　　が救われた

盲目の琵琶法師　ロレンソ了斎

晩年のロレンソ了斎（右）　長崎に入港した南蛮船（ポルトガル船）を出迎える
（南蛮屏風・右隻部分）神戸市立博物館蔵

1526年、現在の平戸市にて生まれる。生まれつき片目が見えずもう一つの目もぼんやりとしか見えず、琵琶法師として生計を立てていた。
1551年、山口の街角でフランシスコ・ザビエルに出会う。街角で説教するザビエルに自身の疑問をぶつけザビエルの回答を聞く中で、キリスト教の教えを理解し洗礼を受けてロレンソという洗礼名を受けた。**ザビエルらが、何万キロも離れた外国から様々な危険や困難を冒して日本にやって来て、何一つ現世の利益を求めるでもなく、人々の霊魂の教化という唯一の目的のために働いていることに感動**して、自分も神に仕えるため、教会のために全生涯を捧げる決心をした。

ポルトガルから来た宣教師が、織田信長に謁見するとき、ロレンソは、通訳としてついて行きました。信長は、いくつか質問をしました。「お前たちはどこから来たのか。」「はい、ポルトガルです。」「ではポルトガルとはどこにあるのか。」「はい、ここです。」と言って、宣教師は、地球儀を指さしました。「日本に来るのにどれぐらいかかったか。」「はい、2年半です。」「日本に来た目的は何なのか。」「はい、キリストを述べ伝えることです。」

その時、突然、信長が声を荒げました。「嘘を付け！そんなことのために遠い国からやって来るはずがない。お前たちは日本の宝を盗むためにやってきた泥棒に違いない！」

通訳をしていたロレンソは、こう答えました。「お方様のおっしゃる通りです。私どもは日本の宝を盗むために来ました。但し、その宝とは金銀財宝ではありません。日本人の魂です。今、日本人は死と死後の裁きの手にがっちりつかまれています。私どもは、この死の手から日本人の魂という宝を神の手に連れ戻し、盗み出す泥棒でございます。」信長はその答えを聞いて、感動し、伝道を許可したと言われています。

フランシスコ・ザビエル年表

１５０６年	ナバラ王国のサビエル城に誕生する。
１５１６年	スペインのナバラ王国攻撃により、サビエル城が破壊される。
１５２１年	兄達はスペインの守備軍の武将イグナチオ・デ・ロヨラと戦う。
１５２５年　(19 歳)	パリ大学の聖バルバラ学院に入学。
１５３０年（24 歳）	哲学修士を授与される。神学院で同室となったロヨラの感化を受け、 修道者として東方布教に献身する決意をする。（ザビエルの大回心）
１５３４年（28 歳）	イグナチオ・ロヨラと７人の同志会を結成し「モンマルトルの誓い」を立てる。
１５３７年　(31 歳)	司祭叙階。
１５４０年　(34 歳)	インドへの派遣。1543 年ゴア到着。
１５４５年　(39 歳)	マラッカにて、日本人ヤジロウ（アンジロー）と出会う。
１５４９年（43 歳）	鹿児島到着。鹿児島領主・島津貴久に謁見、布教許可を得る。
１５５０年	平戸へ行き、領主・松浦隆信より宣教の許可を得る。
１５５１年	京都に行くも、天皇への謁見は果たせず。
同年１１月（45 歳）	日本を去り、ゴアへ向かう。
１５５２年 12 月（46 歳）	中国宣教を願いつつ、病に倒れ、死去。

ロヨラと同室
大転機

イエズス会結成

インド・ゴア到着

ヤジロウと出会う

鹿児島到着

フランシスコ・ザビエルの日本滞在は
僅か2年3カ月

その後の働きは・・・
コスメ・デ・トルレス神父
ジョアン・フェルナンデス修道士
ロレンソ了斎
らに引き継がれて行く

➡神の摂理による出会いと信仰継承

ローマ10:15

遣わされることがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか。「なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は」と書いてあるようにです。